

MBC ラジオ『ココが聞きたい！ドクタートーク』2025.1.18

第 1133 回放送分『大人・子どもの神経発達症』3 回目

ゲスト：永田雅子ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは、「大人と子どもの神経発達症」をテーマにお送りしています。
お話は、鹿児島県医師会 永田雅子（ながた まさこ）ドクターです。
永田さん、どうぞよろしくお願ひいたします。

永田雅子Dr.

よろしくお願ひいたします。

二見いすず

先週は、神経発達症にはどのようなものがあるかについて、お話しいただきました。
感覚が過敏で強いこだわりなどがある自閉スペクトラム症、
落ち着きがなかったり、集中力が続きにくかったりする ADHD 注意欠如多動症、
文字を読んだり書いたりすることが困難な学習障害などがあるということでした。
このようなお子さんの場合、学校生活はどのようにして送るのでしょうか？

永田雅子Dr.

特別支援学級で学ぶという選択肢があります。最大 8 人の少人数の学級です。
大勢の子どもたちがいる通常学級だと、
周囲が気になりすぎる、気持ちの切り替えができないなどで
学習に支障があるというお子さんは、
少人数の特別支援学級だと随分楽になることがあります。

二見いすず

確かにそのような特性があるお子さんだったら、
少人数のクラスの方が合っているでしょうね。

永田雅子Dr.

はい。たとえば忘れ物が多いお子さんには、
忘れ物をする前提で、教師も対応してくれます。
対応を個別にできるのが特別支援学級のメリットです。

二見いすず

そうなんです。

永田雅子Dr.

特別支援学級というと、昔は知的な障がいをもつお子さんの
クラスしかなかったの、「孫が特別支援学級に通う」と聞くと、
中には驚かれる高齢者の方もいらっしゃいます。

しかし、自閉症・情緒の特別支援学級もあり、学習内容は通常学級と同じ目安で、情緒の安定を図る活動があります。

二見いすず

落ち着いたら通常学級に行くことも可能なのでしょうか？

永田雅子Dr.

はい。途中から通常学級に移ることはあります。

また、「通う」に「学級」と書いて、「通級」というものがあります。

こちらは普段は、通常学級で学んで、

週に1～2時間個別指導を受けるという学び方です。

二見いすず

そういう学び方もあるんですね。

これから小学校へ入学される場合、

通常学級にするか特別支援学級にするか、迷われる親御さんもいると思いますが、

こちらに関してはいかがですか。

永田雅子Dr.

大切なのは、どのような環境や支援があれば、

お子さんの力や可能性を最大限に発揮できるかという視点で

考えることだと思います。

先ほどもお伝えしたとおり、途中で通常学級に移ることもできます。

学びの場は、必ずしも固定されているものではありません。

二見いすず

よく分かりました。

今月は、「大人と子どもの神経発達症」をテーマにお送りしています。

お話は、鹿児島県医師会 永田雅子ドクターでした。

永田さん、ありがとうございました。

永田雅子Dr.

ありがとうございました。